

(無底良韶は、康永三年七月六日の條に見えたる比丘淨韶の弟なり。)

二月廿四日。石川郡白山宮莊嚴講勸進、明日を以て十如坊に講衆を招集す。

【白山宮莊嚴講中記録紙背文書】

三三七

明日辰一點於十如坊

可有御集來矣

見聞

貞澄權律師 立政權律師奉

幸海權律師奉 理澄權律師奉

善耀權律師奉 禪祐阿闍梨奉

信存阿闍梨 承覺權律師奉

連海大德奉 詮乘大德奉

澄盛大德奉

右依恒例所唱如件

貞和三年二月廿四日

勸進 禪 幸

三月十五日。幕府、佐々木氏頼に、山城臨川寺

領加賀郡大野莊の年貢を近江湖上に押領する勿らしむ。

【臨川寺文書】 山城

三三八

臨川寺雜掌中、加賀國大野庄年貢運送事、於近江湖上稱兵士來致違亂云々、甚無謂。早可被停止之狀、依仰執達如件。

貞和三年三月十五日

武藏守 在判

佐々木大夫判官殿

四月廿四日。石川郡白山宮莊嚴講勸進、明日を以て地藏院に講衆を招集す。

【白山宮莊嚴講中記録紙背文書】

三三九

明日午尅於地藏院

可有御集來矣

見聞

貞澄權律師 禪幸權少僧都奉

立政權律師奉 理澄權律師奉

善耀權律師奉 禪祐阿闍梨奉

信存阿闍梨 承覺權律師奉

連海大德奉 詮乘大德

澄盛大德

右依恒例所唱如件

貞和三年四月廿四日

勸進 幸 海

五月二日。藤原重宗、石川郡祇陀寺に能美郡河内莊内楢森野の地を賣渡す。

【祇陀寺文書】

三四〇

賣渡 加賀國河内庄内楢森野半分事

東限山麓 南限御子清水尻江小橋

合四至者 西限大河 北限自虹谷至河岸岡分

楢森野四至如此、々内半分者寺領也。

右當所者、重宗重代相傳無依違所領也。而依有要里代錢佰貫文仁、眼永代所奉賣渡于祇陀寺開山大智上人也。然者年貢課役并檢斷雜務以下、爲一圓不輸之寺領、可有御寺務候。但於領家年貢段別登斗米者、任惣庄之例、自寺家可有御勤仕也。重宗子孫等、雖爲一塵不可致

違亂妨。若昔此旨致煩者、爲不孝之仁、不可知行重宗之跡。子孫等中仁有護法之志願輩、任此狀之旨、經上裁可申賜當庄也。仍爲後日龜鏡賣券狀如件。

【祇園社記】

三四一

護渡 晴賀管領分條々事

一、祇園社寶塔院供僧職式口坂田保役

一、加賀國萱野保梨子本御寄進

一、美乃國上秋庄内當社領御寄進

一、山城國東藏庄

一、社内松尾社

加賀國河内庄惣領藤原重宗 在判

(河内庄は能美郡と石川郡に跨れども、杉森は能美郡に屬す。西限大河といふは大日川にして手取川にはあらず。)

七月二日。山城祇園社の僧晴賀、顯詮に、加賀郡萱野保等の地を讓る。

【祇園社記】

護渡 晴賀管領分條々事

一、祇園社寶塔院供僧職式口坂田保役

一、加賀國萱野保梨子本御寄進

一、美乃國上秋庄内當社領御寄進

一、山城國東藏庄

一、社内松尾社